



Creating a Better World: Enabling Global Citizens for the Sustainable Development Goals

Guidelines for aligninga Youth Programme
with education for the Sustainable Development Goals

より良き社会を創る：

地球市民が持続可能な開発目標を達成する

スカウトプログラムと持続可能な開発目標教育を同化させる
ためのガイドライン



SCOUTS[®]
Creating a Better World



© World Scout Bureau Inc.
YOUTH PROGRAMME
November 2018

The production of this publication was made possible thanks to the support of Alwaleed Philanthropies.

World Scout Bureau Global Support Centre
Kuala Lumpur

Suite 3, Level 17
Menara Sentral Vista
150 Jalan Sultan Abdul Samad
Brickfields
50470 Kuala Lumpur, MALAYSIA

Tel.: + 60 3 2276 9000
Fax: + 60 3 2276 9089

worldbureau@scout.org
scout.org

© 2018. World Organization of the Scout Movement. All rights reserved.

This document is primarily for National Scout Organizations (NSOs) and National Scout Associations (NSAs). It provides guidance on how to align the Youth Programme in Scouting to the Sustainable Development Goals (SDGs). To seek further support, please contact the World Scout Bureau at worldbureau@scout.org.

The production of this document was made possible thanks to the Youth Programme unit of the Educational Methods work stream of the 2017-2020 World Scout Committee.

Authored by:
Hany Abdulmonem, Callum Clark, Élise Drouet, Isabelle Dufresne-Lienert and Pia Melin Mortensen

Edited by:
Isabelle Dufresne-Lienert

Contributors:
Youth Programme unit 2017-2020
Core Team of the Educational Methods work stream 2017-2020
Youth Advisors to the World Scout Committee 2017-2020
World Scout Bureau Staff and Regional Youth Programme Directors

A special thanks to:
Peter Blatch, Diana Carillo Tiburcio, Syd Castillo, Brunel Etienne, José Figueira, Troels Forchhammer, Julius Kramer, Cynthia Marquez, Daiana Neil, Carla Simoes, Radu Stinghe, Eduard Vallory and David Venn

Reproduction is authorised for NSOs and NSAs, which are members of the World Organization of the Scout Movement. Credit for the source must be given in the format of: © 2018. World Organization of the Scout Movement. Reprinted with permission.

Creating a Better World: Enabling Global Citizens for the Sustainable Development Goals

Guidelines for aligning a Youth Programme with
education for the Sustainable Development Goals

“持続可能な開発のための教育とは、
学ぶ者が客観的な判断力を備え、持続
可能な事柄に積極的に取り組む人間に
なるよう導く教育である”

SDGs教育;学習目的
(UNESCO. 2017)



CONTENT

青少年、スカウティングと持続可能な開発目標	6
この文書の目的	8
SDGs(持続可能な開発目標)とは？	10
スカウト運動の2030アジェンダへの貢献(役割)	18
持続可能な開発のための教育	24
スカウティングが目指す行動する地球市民になるためSDGs達成力を身につけよう	26
SDGsを学習する目的とアプローチの仕方	28
SDGsとの同化	30
最初のステップ:プログラムで同化すべき領域はどこか	34
2番目のステップ:スカウトプログラムを作る	38
3番目のステップ:実行・モニタリング・評価そして共有	40
SDGsを当たりまえのことにする	44
ひらめきの小箱	48
スカウティングでの参考例	48
スカウティング以外の参考例	49
まとめ	50
参考文献	51



Young people, Scouting, and the Sustainable Development Goals

青少年、スカウティングと持続可能な開発目標

貧困をなくすこと、不平等と戦うこと、
そして気候変動を止めること

上にあげたのは私たちがより良き世界の実現のため向き合わなければならない3つの主な課題です。

しかしこれらの課題はひとりが頑張っても解決できるものではありません。どうすれば世界中の人が結束して積極的に行動する地球市民となり、これらの問題に取り組んでいけば良いのでしょうか。実は方法があるのです。

2015年、国際連合・全加盟国が持続可能な開発のための2030アジェンダを採択しました。そこにはあらゆる人々をより良いそして持続可能な未来へと導く17の持続可能な開発目標(SDGs)を中心とした計画が掲げられています。このアジェンダには、持続可能な開発と地球市民が共存していくための国境を越えた活動への提言が盛り込まれており、その成功は全人類の双肩にかかっています。

青少年の力なくしてこれらの目標を達成することは難しいでしょう。実は今の青少年世代は歴史上人口が最も多いのです。(UNFPA, 2014) それゆえ彼らには持続可能な開発のためのグローバルアジェンダにおいて、リーダー、パートナー、そして革新的アイデアの提供者としての役割が求められています。2030アジェンダとSDGsの17目標をとおして、青少年は多岐にわたる課題やこれまでとは異なる社会への関り方を学ぶとても良い機会を得ることができます。

これらの目標を2030年までに達成するためには柔軟な教育体制が極めて重要になってきます。すなわち、若者が持続可能な開発を推進していくのに必要な能力を身につけられるかどうかは鍵なのです。

だからスカウティングなのです。

創始以来、青少年たちはスカウティングをとおして社会に好ましい変化をもたらし、困難な問題や様々な社会のニーズに対応する力を培ってきました。スカウティングはまた、行うことによって学ぶ、自己研鑽という方法を用いて、彼らが一人前の社会人そして積極的に行動する地球市民となるよう育成してきました。

この冊子が各国のスカウト連盟(以下NSO)にとってSDGs教育の内容を自国のスカウトプログラムにどう活かすのが最適かを示すガイダンスとなることを願っています。

スカウティングのミッション(使命)とは、青少年がより良き世界を築くよう導き教育することです。SDGsの目標のひとつに、誰もがより快適な生活を過ごせるようなより良き世界を実現する、というものがあります。スカウトたちはこれに大きく貢献できるでしょう。

これらの目標を目指すことによって、青少年はもちろん、成人・組織・国家・その他あらゆる機関すべてが目線を揃えてこの地球上の生活が誰にとっても良いものとなるよう動き出すのです。

SO LET'S GET STARTED.



The Purpose of this Document

What is the aim of this document?

このガイドラインはNSOがスカウトプログラムとSDGsを同化させることを支援するためのものです。

この文書を読めばなぜNSOがスカウトプログラムとSDGsを同化させる必要があるのか、それはどのように進めるのか、そして様々な事例やリソースをもとにそれぞれの国でどのように始め、どのように続けていけば良いのか、わかるようになるでしょう。

Who is this document for?

この冊子はNSOのスカウトプログラム担当者(*1)向けのもので、その他のスカウティング関係者、特に各国のSDGsを担当する役割の方々、良い教材を探し求めている指導者の方々にも活用いただけます。

What motivated the creation of these guidelines?

第41回世界スカウト会議(アゼルバイジャン・バクー)で採択された決議2017-08(持続可能な開発のための2030アジェンダ*)によって、世界スカウト機構は組織を挙げてSDGsに積極的に取り組むことになりました。

この取り組みは世界スカウトプログラム方針に明記され、スカウトたちはスカウティングをとおしてSDGs達成に尽力すべきものと定まりました。

したがって、このガイドラインは、NSOが主体となって積極的にSDGs達成に向けて動く、それによってスカウティングは2030アジェンダに貢献するのだ、というNSOの明確な意志を受けて作られたものとなります。



“同化”がもたらす効果：

- スカウトたちに自分たちの行動がどれほど周りの青少年たちを刺激し、より良い世界の実現を目指す原動力となっているか自覚させます。
- 青少年に新しい学びの機会が与えられ、一番解決したい問題についての刹那的でない解決策を思いつく能力を身につけることができます。
- SDGsと同化しているところを明確にし、共有することによってスカウトプログラムがより強化されます
- 青少年が今求めているものに応え、スカウト運動が今でも時代遅れではないことを示すことができます。
- 持続可能な開発のためのグローバルアジェンダとスカウティングが目指すノンフォーマル教育がつながっていることを示す一助となります。
- スカウティングに馴染のない人々が実は110年以上にわたって持続可能な開発に関わってきたスカウティングを知るきっかけとなります。
- SDGsの17目標達成に関わっていることで、達成を実現したいと願う人々との連携や協力関係をより強固なものにでき、円滑な資金集めも展開できます。
- SDGsとの同化が組織全体におよぶことにより、より息の長い教育機関になることができます。

SDGsと「同化させる」とはどういうことなのでしょうか？

積極的に行動する地球市民を育てることがスカウティングの役割のひとつですが、そのことでSDGsの達成に貢献できると考えています。これが「同化させる」という言葉を使う理由です。

スカウト教育的提案をSDGsのレンズを通して見る、これが「同化させる」の意味です。実際、SDGsのひとつひとつの目標を見ていくと、スカウティングがすでに2030アジェンダに沿って上げてきた多くの成果に気づかされます。これは私たちにとって大きな励みとなります。つまり、スカウトプログラムによってスカウトたちが行動する地球市民に成長していることが確認でき、スカウトプログラムの教育効果を強調できる

¹ “プログラム開発者”（スカウトプログラム委員会等を含む）とは、スカウトプログラムを策定する役割と責任を果たす者（世界スカウトプログラム方針 WOSM, 2017a）（WOSM, 2017a）。

What are the Sustainable Development Goals?



SDGsとは？



持続可能な開発 - 今のニーズを
損なわず、かつ次世代の将来のニ
ーズも損なわず進められる開発のこと

(世界環境開発委員会、1987年)



2015年、国連加盟193か国が「世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」という基本目標を採択しました。2030アジェンダには壮大な目標—SDGs—すなわち、人間・繁栄・地球・平和・パートナーシップのために達成すべき持続可能な開発目標、が定められています。このアジェンダは2015年に終焉を迎えた8つの目標からなるミレニアム開発目標に代わるもので、17の持続可能な開発目標と169のターゲットからなります。

Key concepts to understand the SDGs

SDGsを理解するためのキーコンセプト

- SDGsって国連だけ頑張ればいいの？違います！2030アジェンダは全世界的なものです。私たちひとりひとりがこれらの目標を達成する役割を担っています。そして誰もがその達成による便宜を享受できます。SDGsは世界中のどの国も達成に向け、内外問わず行動していく責任を負うものです。その主役は各国政府であり、その国の事情に応じて実行計画を策定していく必要があるでしょう。
 - アジェンダでは、誰も置き去りにしない、ということを一貫して主張しています。これはSDGsが呉越同舟であること、そして全員が利益を享受しない限りSDGsが達成されたことにはならないことを意味します。つまり、最初に手を差し伸べる相手は、はるか彼方に置き去りにされている人々ということです。
- しかし主役以外の脇役たちも同様に重要な役割を担っており、身近な場所から地球規模まで、そして官民間問わず市民社会においても、2030アジェンダが実行されていること、およびその進捗を監視しなければなりません。したがって、これらの目標は地球規模で達成していくものなのですが、アジェンダでは、地域・国・世界が一丸となって目標達成にまい進する必要性を訴えています。
- SDGsの目標はどれもがお互いに関連しており、分けて考えるものではありません。つまりどの目標も単独で達成されることはないということです。ちょうど持続可能な開発の3つの側面(社会・環境・経済)と同じようにどれも欠けてはいけません。進めるに当たっては、個別のゴールに目を向けるのではなく、アジェンダ全体を見据えて目標達成を目指す必要があります。いろいろな問題がいかにか絡み合っているか知ることができるのがSDGsの特徴でもあります。個別の目標にのみ集中したのでは持続的な解決は導き出せないのです。
 - SDGsは、社会・経済・環境という3つの側面を人類と地球にとって最も重要な5つの分野に再構成しています。それはつまり、人類・繁栄・地球・平和そしてパートナーシップです。
 - アジェンダ達成にはSDGs教育が重要となります。現代の諸問題に対する持続的な解決策を考え出すための知識・スキル・価値観そして姿勢が個々の人々に備わるようにするのがSDGs教育です。この教育内容は学が者が中心で行動型かつ柔軟性に富んだものでなければなりません。(UNESCO, 2017)詳しくは持続可能な開発目標のための教育の項(P.24)を参照ください。
 - このアジェンダの変革を推進する中心人物は青少年です。明示的であったり暗示的であったりしますがSDGのほぼ3分の1が青少年の社会進出や社会参加、彼らの幸福に関する問題と関係しています。(UNICEF, 2018)確かに青少年はそういった問題を抱えてはいるのですが、一方で今日の諸問題への新しい切り口を示すことができるのは、革新的で、リーダーとして行動でき、変革をいとわず、明確な意志表明ができる、そして何かを起こす力を持っている青少年たちなのです。

What are the 17 Sustainable Development Goals?

17の持続可能な開発目標

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

すべての人々への包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

各国内及び各国間の不平等を是正する

包括的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間の定住を実現する

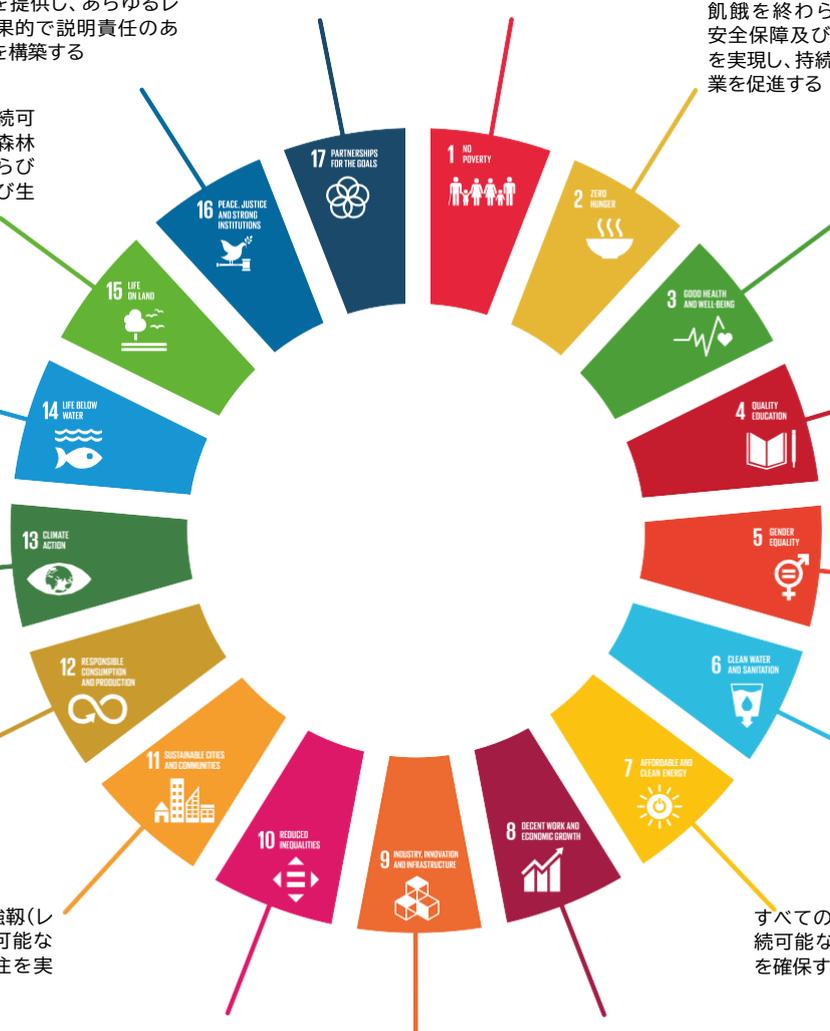
持続可能な生産消費形態を確保する

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

持続可能な開発のための平和で包括的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



Read more about the SDGs at globalgoals.org or by reading the 2030 Agenda for Sustainable Development.

Scouting's Link to the SDGs

スカウティングとSDGsとのリンク

EDUCATION:

教育

The Youth Programme enables young people to become active global citizens for the SDGs

スカウトプログラムがSDGsの達成を目指す「積極的に行動する地球市民」を生む

SDGsを達成するためには、迫り来る課題に立ち向かうだけの力を備えた積極的に行動する地球市民が欠かせません。そのような力を養うためには教育が鍵となります。より具体的には「自主的に方向性をもって学ぶ姿勢を支える行動型で柔軟性に富んだ教育」が必要になります。(UNESCO, 2017).

行うことによって学び、自己研鑽していく、というスカウティング独特の教育法をとおして青少年は積極的に行動する市民へと成長し、持続可能な開発に貢献することになります。

169あるSDGターゲットのうち3分の1を超えるターゲットが若者の果たす役割の重要性に触れています。そして青少年がその持てる可能性をいかに発揮できるよう導くノンフォーマル教育に特化したスカウト運動はSDGの4番目の目標である「質の高い教育をみんなに」と深く関わっています。(*2)

スカウトプログラムは明確にノンフォーマル教育というアプローチを取っています。そのスカウトプログラムをとおしてスカウトたちは一人前の社会人として積極的に行動する地球市民へと力強く成長していくのです。

世界スカウトプログラム方針にも述べられているように、スカウトプログラムをとおして青少年は、内外を問わず積極的に行動する市民となる、現代社会が抱える経済・社会・環境問題に向き合う、そしてSDGs達成に貢献する、そういう心構えを持つようになります。(WOSM, 2017a)

*2どう直結しているかについてはスカウティングの方針や指針に関する以下の資料を参照ください。

世界スカウト機構規約、スカウティングの本質的特徴、世界スカウト青少年プログラム方針、世界スカウト青少年参画方針、セーフ・フロム・ハーム方針、スカウティングにおける成人



スカウト教育法

スカウト教育法は“スカウトプログラムを体験する”という独自の教育法です。お互いに補完し合う8つの要素を持つスカウト教育法を活用した様々な方法で、青少年は持続可能な開発に貢献するのに必要な能力を身につけられます。もしこの教育法をSDGsのレンズを通して見たなら：

スカウト教育法の詳細については以下を参照ください。
Essential Characteristics of Scouting(スカウティングの本質的特徴)2019年更新版

- **The Scout Promise and Law** 「ちかい」と「おきて」は、共に生きるという価値観を共有することの大切さ、また平和・相互理解・協調が身近な社会から世界の隅々まで行きわたるよう、自ら進んで行動することの大切さを青少年に気づかせてくれます。同時に社会の発展に尽くすよう導いてくれるのです。そういったことがスカウトたちにとって「他へのつとめ」を実践するチャンスとなり、世の中をより良いものにしたいという想いに駆り立てていくのです。
- **Learning by doing** 「行うことによって学ぶ」をとおして、青少年は問題を理解できるようになるだけでなく、問題に対して行動を起こす意志と能力を備えるようになります。
- **The team system** 「チームシステム」によって、ひとりでは解決できない大きな問題に取り組んでいくための協調性とリーダーシップの能力が育まれます。
- **Community involvement** 「社会との協同」をとおして、この社会が抱える難題に取り組む力、それを改善する力、そして周りの人々に対する責務を果たす力と感謝の心を育みます。
- **Nature** 「自然」は自分への挑戦の舞台であり、地球とのつながりを表します。
- **The SDGs** (Symbolic Framework) 「シンボルの活用」SDGsは独自のシンボルを用いていますが、シンボルの価値を理解し活用しているスカウティングとの関連をことさらに際立たせません。
- **Adult support** 「成人による支援」をとおして、世代間の対話が生まれ、目の前の課題がいかに複雑なものであるかスカウトたちに理解させる糸口を与えることができます。
- **The personal progression** 「進歩制度」では、プロジェクトを重ねるごとにスカウトたちの責任感と貢献度が高まっていきます。その結果、身近なところから地球規模に至る持続可能な開発を実現する能力がスカウトたちに備わります。

A GRASSROOTS APPROACH:

隊・団レベルでの取り組み

Tackling issues through a movement that is embedded in its community

地域に根ざした活動をとおりして問題に取り組む

スカウティングは活動をとおりして地域社会に深く根ざし、地域社会の多様化するニーズと青少年の要望に応えてきました。それゆえ、SDGsで取り上げる課題を理解し取り組んでいくのにスカウティングは絶好なのです。

NSOが自国のスカウトプログラムは青少年にとって適切で魅力的かつ想像力を刺激するものであると確信するならば、スカウトたちはその国の青少年にとって一番気がかりな問題に本人たちも気づかないうちに取り組んでいることでしょう。

REACHING OUT TO ALL:

すべての人に手を差し伸べる

Scouting is leaving no one behind

スカウティングは誰も置き去りにしない

スカウト運動は全ての人に開かれています。アジェンダの根底に流れる「誰も置き去りにしない」という理念は、まさにスカウティングのダイバーシティ&インクルージョン(多様性と包括性)の理念に一致するものです。スカウティングはあらゆる人に手を差し伸べ、はるか遠く取り残されてしまった人たちをカブつけ誰もが持続可能な開発の恩恵を受けられるようにしていきます。

A SHARED MISSION: 共通する使命

An agenda that helps Scouting achieve its Mission and Vision

アジェンダとスカウティングの使命と展望

SDGsには17の目標がありますが、「人々が個人としての自己実現を果たし、社会において建設的な役割を果たすことができる、よりよき世界を築くのに役立つ」というスカウティングの使命と目指すところは変わりません。

さらに付け加えるならば、スカウティングのビジョン2023で、スカウト運動は「青少年向け教育運動のさきがけ」となり「地域社会および世界に好ましい変化をもたらす行動型市民へと成長する青少年が2023年までに1億人となることを目指す」ことに全力を尽くす、とあります。(WOSM, 2017c; WOSM, 2018)

1億人を目指すということはまた、それだけの数の青少年が、多様な価値観の中で学ぶ喜びを味わい、持続可能な開発に必要な能力を伸ばしていくチャンスに恵まれることも意味します。

SDGs達成に向けて私たちが行おうとしていることは、スカウティングの将来に直結しており、110年以上にわたり平和と発展に寄与してきた偉業を活かすことにもなるのです。

責任感にあふれ、
有言実行で、
自立しており、
援助を惜しまず、
そして文化を尊重する、
そんな積極的に行動する地球市民に青少年を育てあげる、
これがスカウティングのねらいである。



**SCOUTING
AIMS TO PREPARE
YOUNG PEOPLE
TO BE ACTIVE GLOBAL
CITIZEN THAT ARE
RESPONSIBLE,
COMMITTED,
AUTONOMOUS,
SUPPORTIVE,
AND CULTURALLY
SENSITIVE.**

Scouting's Contribution to the 2030 Agenda

スカウティングと2030アジェンダ

INSPIRE, ENABLE, DELIVER:

気づかせる、可能させる、実行する

Our equation for creating active global citizens

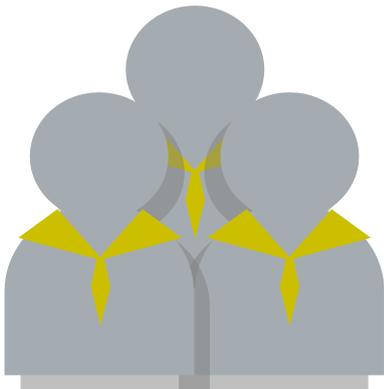
積極的に行動する地球市民を育むという共通の願い

スカウティングがSDGsに対して貢献できる最初で一番大切なことは、スカウティングが人生の為の教育であるということです。

SCOUTING INSPIRES YOUNG PEOPLE

スカウティングは青少年を鼓舞する

- 若者はひとりひとり個性的で(身体的、知的、性格的、情緒的、社会的、精神的に)無限の可能性を秘めており、それぞれの地域社会で(責任感、有言実行、自立、支援、文化尊重の心を持ちながら)活躍しています。
- スカウティングによって青少年が自己の可能性に目覚めることを期待しています。



SCOUTING ENABLES YOUNG PEOPLE TO CREATE A BETTER WORLD

より良き世界を築く青少年を生む環境

スカウトプログラムは、スカウティングのノンフォーマル教育の一端を担うものですが、青少年はこれをとおして自己の可能性に目覚め、より良い世界を築いていく人間になっていきます。

スカウトプログラムはスカウト達に自分の成長に対する責任をもたせることによってスカウトを中心としたプログラムで展開されます。

どうアプローチすれば良いのでしょうか？スカウト教育法-進歩していく自己研鑽システム-を活用します。

- 「ちかい」と「おきて」:価値観の共有を守りとおす
- 行うことによって学ぶ:行動した結果から学ぶ
- 個人の進歩:ひとりひとりに合った段階的進歩に基づく学びの旅
- チームシステム:仲間同士の連携とリーダーシップ
- 成人の支援:青少年と大人はお互いパートナーと認め合う文化
- シンボルの活用:シンボルの共有で連帯感を生み絆を強める
- 自然:問題解決や自省を促す環境
- 社会との協同:地域社会がより良いものとなるよう自らが進んで目を見開き関わる

あらゆる学びの機会がスカウト教育法を通して得ることができます。

そしてそれは安全な環境のもと、地域に根ざしたボランティア(隊・団の指導者)によって運営されています。

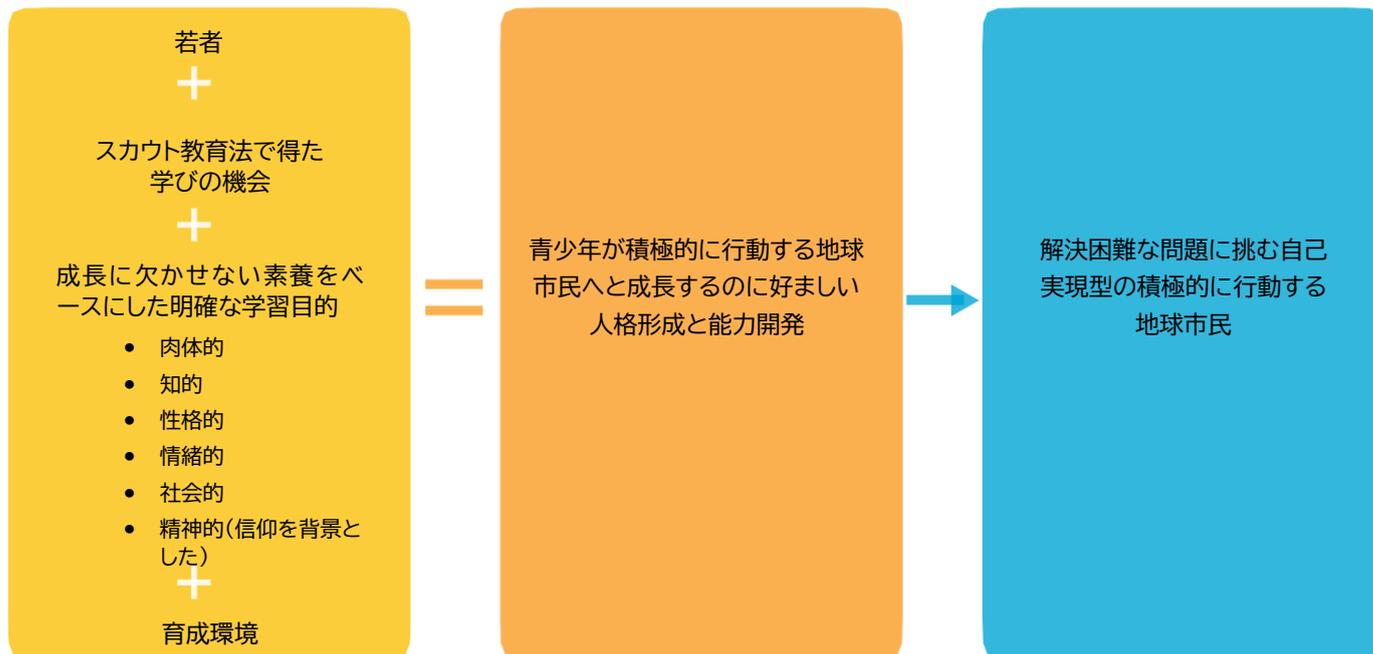
青少年がスカウトプログラムをとおして得る学びの機会は無尽蔵です。それは、活動、プロジェクト、大会、班長等のリーダー的役割など多岐にわたります。

スカウトプログラムには明確な学習の目的があります。それは年代別になっており、その中身は、人が積極的な地球市民へと成長するのに欠かせない素養をベースにしています。

SCOUTING DELIVERS SELF-FULFILLED ACTIVE GLOBAL CITIZENS

スカウティングは自己実現できる積極的に行動する地球市民を輩出する

スカウティングによって強い自立心を持ち積極的に行動する地球市民としてのパワーにみなぎる人間が生まれます。



スカウティングは若者ひとりひとりが好ましい発達を
遂げられるよう活躍する舞台を数限りなく提供してい
ます。

ベターワールドフレーム
ワークの各プログラム(以
後BWFとする)あるいは
SDGsに関わるスカウト
活動はどれもスカウトプ
ログラムにおける学びの
機会となります。これは
SDGsの為の教育も含み
ます。



このような自己実現型の積極的に行動する地
球市民が、スカウティングの価値観を反映した
プロジェクトを活用したり、態度(行動・進路)で
示したりあるいは仕事に就いたりすることで、
この世界をより良いものにしていきます。



青少年育成。これこそSDGsがスカウティ
ングに求めていることであり、「SDGsと
の同化」の背景です。

そうして育成された青少年が、今度は自
分たちのプロジェクトを活用し、態度(行
動・価値観・進路)で示すことでSDGs達
成に貢献するのです。その際、スカウト活
動であるかないかは問題ではありません。

SCOUTS FOR SDGs:

50 million Scouts making the world's largest youth contribution to the SDGs

スカウト5千万人 世界最大の青少年団体がSDGsに貢献する

地球は今、社会・環境・経済に関わる差し迫った重要課題に直面していますが、持続可能な開発を今後も引き続き推進していくのだという決意のもと、スカウティングには青少年がこれらの課題にこれまでになく努力で取り組んでいくよう導いていく力があります。

スカウト・フォー・SDGsは世界最大の組織化された青少年活動です。5千万人の青少年たちが、17目標に関わる2百万もの活動を世界各地で行っており、さらに30億時間もの時をSDGsのために奉仕する準備ができています。

スカウトたちは日々SDGsに関わる地道な活動を行っています。したがってスカウト・フォー・SDGsが何か新しい世界プログラムやアワードというわけではありません。むしろ、SDGsの認知度を高め、SDGsに向けての行動を起こすために、スカウトプログラムやBWFで重点的に取り組む課題を活用した体系化した取り組みなのです。

スカウト・フォー・SDGsによって、BWFで重点的に取り組む課題や新たなリソースが17の目標と同化していくでしょう。そして同化をとおして、ノンフォーマル教育であるスカウト活動が世界中の持続可能な開発に対して大きく貢献します。スカウト・フォー・SDGsの役割はその貢献度を高めると同時に、内容をモニタリングし、評価を下すことです。



SCOUTS for SDGs

These guidelines are part of a set of resources that exist in WOSM to help NSOs work with the SDGs. This also includes:
WOSMではNSOがSDGsに取り組むためのリソースを用意しています。以下は一例です。

An "Intro to SDGs" training for Scouts スカウト向け「SDGs導入」

スカウトたちにSDGsを紹介するなら、まずこの資料を推奨します。ここに紹介されている活動を利用してスカウトたちに話し合いをさせてみてはいかがでしょうか？きっとSDGsへの理解が深まるでしょう。

The SDG Hub: **sdgs.scout.org** SDGハブ:

スカウトたちがSDGsに向けて動きだすよう仕向けた方は以下のサイトを訪問ください。スカウトたちがすでに実施している、あるいはできる活動を紹介しているウェブサイトです。sdgs.scout.org

WOSM services: **services.scout.org** WOSMサービス

「WOSMサービスモデル」(services.scout.org)は、より良いスカウティングを世界中の青少年に提供できるようにNSOをサポートするオンラインプラットフォームです。ここでは12種類の多岐にわたるサポートやリソースをNSOに提供しています。その内容は、方針やツールキット、ガイドラインからeラーニングや個別相談(オンライン、訪問どちらも可)、さらにワークショップやトレーニングの開催にまで及びます。

スカウトプログラムサービスでは、スカウトプログラムとSDGsをどう結びつけるか困っているNSOに対してリソースやサポートを提供しています。また、ここではSDGs教育に関するヒントが他にも数多く掲載されています！

The Scout Donation Platform: **donate.scout.org** スカウト募金プラットフォーム

活動に必要な資金集めをするなら、スカウト募金プラットフォーム(donate.scout.org)でクラウドファンディングはいかがでしょうか？SDGsの活動がより機動的になるのではないのでしょうか？

The Better World Framework:

ベターワールドフレームワーク

Learning Opportunities for Active Citizenship

積極的は市民に学びの機会を

ベターワールドフレームワーク(以下”BWF”)とは、効率的に組織化されたプログラムやキャンペーン、集会、大会を活用して青少年の能力開発を促す一連のプログラムを指します。このプログラムをとおして青少年は行動する地球市民へと成長し、持続可能な開発に関する様々な課題に立ち向かう能力を身につけていきます。

NSOがこのプログラムを利用すれば、地球市民を育成する、そして世界共通の目的に沿った社会づくりをする、という2つの事柄は同じ意味を持つようになります。

またBWFを活用することによって、社会づくりで特に重きを置くSDGに沿った重点的に取り組むべき課題と持続可能な開発に必要な能力とにつながりが生まれます。

ばらばらだった重点的に取り組むべき課題がBWFのもと同化していくと、NSOは共通の物差しを使って、スカウティングがどれほどSDGs達成に貢献できたかを評価し、報告することができるようになります。

BWFには、今話題になっていることを集約したりWOSMの新しいリソース作り(国・地域・全世界のどのレベルでも活用可の)を手助けするという役割、重要な世界的課題の担い手となる若者を支えるパートナーを支援するという役割もあります。これらのパートナーは、その関連する分野におけるエキスパートであり、BWFにおける大切な盟友なのです。(*3)

NSOには、青少年と地域社会にとって身近な問題を重点的に取り組むべき課題として捉えてくれるパートナーを開拓してってもらいたいと考えます。BWFをうまく活用するののひとつの方法で、パートナー、大人、地域社会のメンバーなどが主役となって、青少年の気持ちをSDGsに貢献したくなるように持っていく役回りを演じる、という見せ方もできるでしょう。

BWFのもとで作られたプログラムやキャンペーン、集会、大会はどういったものであれ、スカウトプログラムが持つ学びの機会と捉えて良いでしょう。スカウトプログラムに以下のいずれかをSDGs教育の一環として取り入れることをNSOに推奨します。

3 数多くのWOSMパートナーのエキスパートたちの協力によって、数多くのプログラムやキャンペーン、バッジが生まれ出されました。

例えば、世界環境教育プログラムは国連環境計画とWWFを中心に様々なパートナーの協力で、Patrimonto Scout BadgeはUNESCO世界遺産の協力、The Scouts Go Solar ProgrammはSolafricaとグリーンピースの協力、The Dialogue for Peace ProgrammはKAICIID国際対話センターの協力、HeforSheは国連女性機関の協力とAlwaleed 慈善事業の支えによって、それぞれ開発されたものです。



- **The Messengers of Peace**(メッセンジャー・オブ・ピース)は、個人もしくは地域社会での奉仕活動をとおりてスカウトたちが進んで平和文化を築くよう導くプログラムです。スカウトならいつでも地域社会の中に入って一緒に行動し体験を分かち合うことができます。平和文化を築くためにスカウトとしてどんな行動を取ったのか分かち合うことで、世界をつなぐスカウトネットワークの一員となり、誰にとっても好ましい変化をもたらすことになります。
- **The Scouts of the World Award**(スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワード)は、世界展開しているプログラムで、加盟員ではなくても15歳から26歳までの若者であれば誰でも参加できます。内容は、自分たちがグローバルな課題だと思ふものに取り組み、地域社会で実際に行動に移すというものです。課題の学習に21時間、奉仕活動に80時間を費やす必要があります。
- **The Patrimonto Scout badge**(パトリモント・スカウト・バッジ:世界スカウト/UNESCO世界遺産認定プログラム)は、加盟員ではなくても15歳から26歳までの若者であれば誰でも参加できます。内容は、いずれかのUNESCO世界遺産で決められた奉仕活動を行うものです。このプログラムの目的は、世界遺産について認知してもらい、若者が世界遺産の保全と広報活動に参画するよう導くことです。
- **EarthTribe**(アース・トライブ)は、気候変動をはじめとする持続可能な社会実現のための課題に取り組む新しい環境教育プログラムとして2020年から始めました。環境に優しく、健康的なライフスタイルに向けた習慣の定着を推進しながら、自然とつながって持続可能な環境を守ることを目指しています。私たちの日常生活やスカウト活動が、日本だけでなく世界の環境に対して影響をあたえることを確認できる、世界共通の取り組みとなっています。
日本連盟特設サイト:
<https://www.scout.or.jp/member/earthtribe/>
- **The Scouts Go Solar programme**(スカウト・ソーラー・プログラム)は、スカウトたちの太陽光エネルギーに対する認知、知識そしてスキルの向上を進める活動です。スカウトセンターでこのプログラムに参加すれば「ソーラー・スカウト・バッジ」が取得できます。(アーストライブに包含された)
- **The Dialogue for Peace programme**(平和に向けた対話プログラム)は、対話と平和の構築について学び、その能力を高めるためのプログラムです。スカウトたちはそこで得たことを私生活に活かしたり、より良い平和文化を築きあげることを目的とした対話プロジェクトに発展させたりできます。
- **The HeForShe Action Kit**(ヒー・フォー・シー・アクション・キット)は、世界中のスカウトたちが性の平等を訴える代弁者となり、2020年までヒー・フォー・シーに参加することを促すキットです。アクション・キットは国連女性機関との共同作業で開発されたもので、世界中のスカウトたちが性差別問題について考え、いつ・どのようにしてこの問題に対する行動を起こせば良いか教えてくれるものです。

重点的に取り組むべき課題が身近なものであろうと世界規模のものであろうと、SDGs教育と地域社会の発展に役立つのであれば、それはBWFのひとつになります。上で述べたBWFの好事例を取り入れていこうと考えるNSOは支援を仰ぐこともできます。

そういった動きが、BWFをますます盛んにしていくでしょう。

Education for the Sustainable Development Goals

持続可能な開発のための教育

スカウティングの目的は教育です。それゆえSDGsの目標4、ターゲット4.7にあるSDGs教育の重要な役割を担っていくことができます。

ターゲット4.7 スカウトたち[学習者]は全員2030年までに持続可能な開発を推し進めるための知識とスキルを習得すること。習得対象は、人権、性の平等、文化・平和そして非暴力の推進、地球市民としての権利義務、文化の多様性と持続可能な開発に対する文化の役割など、である。

ところでSDGs教育って何でしょうか？どうすればスカウトたちに持続可能な開発を推し進めるための知識やスキルを身につけさせることができるのでしょうか？ここではそういった疑問に以下のUNESCO発行の文書を使って応えていきます。

「持続可能な開発目標のための教育;学習の目的」(2017)



“問題を解決するには、その問題が発生したときと同じ考え方を
しては解くことは叶わない”

アルバート・アインシュタイン

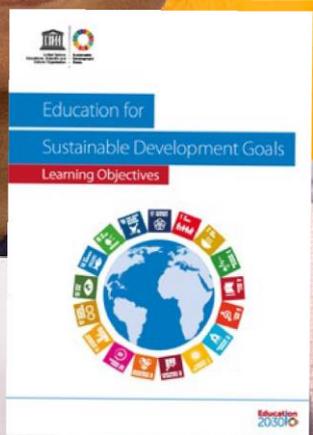
Key resource

キー・リソース

UNESCOは2017年にSDGs教育全体計画のひとつとして「持続可能な開発目標のための教育; 学習の目的」という冊子を発行しました。そこには持続可能な開発を推し進めるために若者が必要とする知識とスキルに着目したSDGs教育の全体計画が載っています。

この冊子は、特に各国連盟のスカウトプログラムを立開発する指導者にとって、今あるプログラムあるいは新しく開発するリソースをSDGsと同化させるのに役立つものとなります。そこには、SDGs教育を進めるのに役立つ、能力、教育目的、取り上げると良い話題、学習方法、が網羅されています。

この冊子を利用するのは、スカウティングの教育方法を刷新するためではなく、持続性を維持するのに必要な能力をプログラムに取り入れ、これを強化するためです



Scouting's Active Global Citizen with Key Competencies for the SDGs

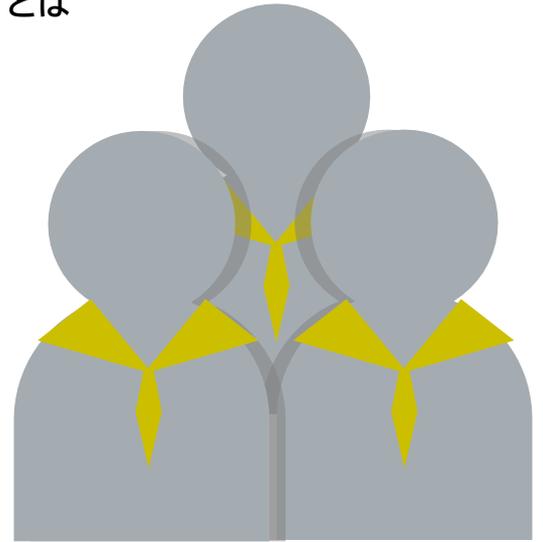
スカウティングが目指す積極的に行動する地球市民になるためSDGs達成力を身につける

SDGs教育が重きを置いている主たる能力とは、2030アジェンダを大所高所から眺める能力、同時に建設的な言動と責任能力を現代社会で発揮する能力、とされています。(*4) スカウティングにおいて積極的に行動する地球市民とは、責任感を持ち、有言実行で、自立しており、援助を惜しまず、文化を尊重する人間とされています。

プログラムや学びの機会をとおして、青少年のこういった分野横断的能力を開発していくことはSDGs教育の根幹をなすものです。それを背景に青少年は地域社会で活躍していくことになります。

A Scout for SDGs is...

SDGsに貢献できるスカウトとは



*4 Competencies refer to the ability to use knowledge (information, understanding, skills, values and attitudes) in specific contexts and to meet demands (UNESCO, 2017).

... an active global citizen:

。。。積極的に行動する地球市民であり

責任感がある

有言実行である

自立している

援助を惜しまない

文化を尊重する

... with sustainability competencies:

。。。持続可能性に関わる能力を持つ者である

- 複雑な問題を解決できます
- 戦略的かつ斬新な行動を提起し実行できます
- 他のものと協力します
- 自己認識ができます
- 考えが整理でき、物事を大所高所から俯瞰できます
- 現状を把握し将来起こるだろう物事を予測できます
- 客観的な意見を述べます
- 物事の本質を見抜き理解します

(Find the full description of these competencies in the World Scout Youth Programme Policy and UNESCO's "Education for Sustainable Development Goals; Learning Objectives" document)

Learning Objectives and Approaches for the **SDGs**

SDGsを学習する目的とアプローチの仕方

学習目的がSDGsと明快にリンクしているスカウティングを活かして、前述してきたような能力を身につけることができます。

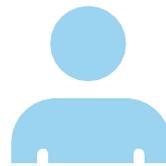
UNESCOはSDGsの17目標を学ぶ目的は以下の3つの領域にあると定義しています。

- 認識の領域、すなわち「何を知れば良いのか」
- 社会感情の領域、すなわち「他者との連携・交渉・コミュニケーション、自省といった社会的スキル」
- ふるまいの領域、すなわち「得た知識を使ってどうふるまうか」

以下イラストでいくつか学習目的の例を示しましょう。

What you know (cognitive)

何を知っていますか？(認識)



- 問題を理解し、その原因ともたらず影響を理解している
- 問題に取り組んでいくための手段がわかっている

What you feel (socio-emotional)

何を感じますか？(社会感情)



- 問題提起し、周りの人も問題に対処するよう動かす
- 問題に巻き込まれた人々に対し、思いやりと連帯の心を示す
- 問題に対して人々が果たした役割と受けた体験に思いを寄せる

What you do (behavioural)

何をするか(ふるまい)



- 問題解決に向けた行動計画を策定し実行ができる
- 問題解決の一助となるよう、きっかけを作り決断を促す

ここで要注意点です！SDGsの目標が相互につながり連動しているのと同じように、それぞれの学習目的も相互につながり連動していることを忘れないでください。

A source of inspiration, not a replacement 何かに代わるものではなく発想のもとである

UNESCOが展開するSDGsの学習目的は、どの”目標”とも密接に関わっています。そしてその学習目的の大部分がNSOの多くですでに実行に移されています。SDGsは、行動する地球市民を育てるためスカウティングが手段とすべきものであって、目的とすべきものではありません。すなわち、SDGsは各スカウト連盟が一例としてそのアイデアを活かし発想のもとにした上で各国の事情に合わせて創意工夫するものなのです。みなさんは、スカウティングとSDGs教育が、単に同じSDGsという傘の下で共通した原動力のもと構築されていることに気づかされるでしょう。

すでに触れた学習目的の3つの領域が身につくよう、SDGの目標にはそれぞれ提言・事例・学習方法が用意されています。

Example:

- 貧困について学ぶには、児童労働問題といった貧困と労働環境に関するテーマを調査して、フェアトレード・キャンペーンを主催する。
- 性の平等について学ぶには、性差別に関するテーマを調査して、性別や性的志向に根差した暴力を受けた人を招いて講演をしてもらう。

1 NO
POVERTY



5 GENDER
EQUALITY



Aligning with the SDGs

SDGsとの同化

スカウティングがその目的達成を目指すことがそのままSDGsへの貢献につながります。そしてスカウティングの目的とは青少年の可能性を100%引き出す教育を施すことです。この教育にはスカウトプログラムを用いますが、その包括的アプローチは人格のあらゆる面を考慮に入れています。

スカウティングで実施する活動は何であれすべて青少年の人格形成に必要な6つの要素を育むことにつながっています。

6つの要素とは、精神、肉体、知性、性格、感情、社会性の6つです。そしてそれは青少年や指導者がスカウトプログラムをとおしてもっと積極的にSDGsに貢献していくようNSOが内容を見直すことでさらに強化されていきます。

In order to align a Youth Programme to the SDGs, NSOs can follow these suggested steps:

スカウトプログラムとSDGsを同化させるため、NSOは以下のようなステップを踏んでいくと良いでしょう。

Youth Programme スカウトプログラム



1st step:

同化すべき領域はどこか定める

- 身近な問題を取りあげ関連づけましょう。
- 優先順位をつけてどんな教育目標やプログラムが適しているか検証しましょう。
- 担当者を選定してリソース探いや支援依頼をしてもらいましょう。

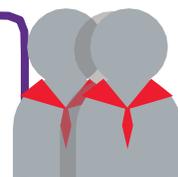
2nd step:

計画と準備

- 材料を集めてどういったアプローチ方法が良いか決めましょう。フィードバックに基づいてそれらが適切か見極めましょう。
- データ収集を始める前に、どのように見直し・評価するのか計画を立てましょう。

Adults in Scouting

スカウティングにおける成人の役割



SDGsとうまく同化できているスカウトプログラムというのは、プログラムの主担当者(成人ボランティア)の周到的な準備と周りの助けがあってはじめて実現するものです。そういった意味ではSDGsとの同化作業が、成人たちの可能性を広げ、成人たちにスカウティング教育を成し遂げようとする力を与えられます。また、成人たちにとってはこのことが新しいプログラムの種を仕込むことにつながり、これら一連のプロセスの理解を深めることにもなります。

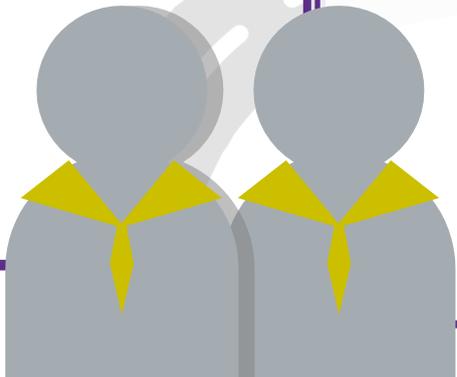
3rd step:

実行とモニタリング

- 内容を告知し必要なリソースを添えて展開を広めましょう。
- 訓練を施し展開できる人員を増やしましょう。

評価と情報共有

- 良かった点を精査して見直したりもっと伸ばしたりしましょう。
- 良かった点を共有しましょう。



Mainstreaming the SDGs

SDGsが当たりまえになる

SDGs教育は単にSDGsをスカウトプログラムの中に取り入れれば良いというものではありません。

どのようにすれば自国に合ったものになるかを考える必要があります。そうすることによってSDGsは初めて「普通のこと」になります。何か特定のテーマがあるとして、それが自国の方針・組織と同化することでそれが「当たりまえ/普通のこと」になるのです。

それゆえ、SDGをスカウティングにとって当たりまえのことにするには、自国のあらゆることにSDGs的な考えを持ち込まねばなりません。そうすれば自国でのスカウティングは青少年教育の模範的モデルとなるでしょう。

例えば以下のようなことから始めてはいかがでしょうか。

Communications, Partnerships, Governance, Operations, Diversity and inclusion

コミュニケーション、パートナーシップ、ガバナンス、オペレーション、多様性と包括性

All Scouts acquire the knowledge, skills, and attitudes needed to promote sustainable development.

スカウトは誰であれ、持続可能な開発を推し進めるのに必要な知識、スキルそして姿勢を身につけることができます。

A participatory approach

参加型アプローチ

SDGsに対する考え方を統一するには様々な声を聴く必要があります。これには参加型アプローチが有効です。この参加型アプローチでは、ビジョンを統一することはもちろんですが、そこに参加している人たちの可能性を引き出す場にする、というプロセスが結果と同じくらい重要です。





Who can we involve in this participatory conversation?

誰を参加型の話し合いに招くか？

- プログラムの主役である青少年(加盟員・非加盟を問わず)
- プログラムの策定者であるスカウトプログラム委員会
- プログラムの進行役である指導者
- SDGsをスカウティングにとって当たりまえのことにしようと運動している有力者
- プログラムを支援する指導者養成委員会
- 経験談を共有するのを手助けしてくれる広報委員会
- SDGs教育を支えるパートナーたち
- その他の関係者

以下のセクションでは、自国のスカウティングとSDGsを同化させるプロセスを、おそらく皆さんがお持ちになるであろう疑問や事例とともに、実際どのようにして進めれば良いのかを解説していきます。

1st step:

Identify Areas for Alignment in Your National Youth Programme

プログラムで同化すべき領域はどこか

自己アセスメント。スカウトプログラムとSDGsを同化させるため、これが大きな最初の一步となります。

まず、スカウトプログラムを精査することで現在それが持つ教育の方向性をつがさに洗い出します。そしてSDGsのどのような面が欠け、プログラムをどう改善できるのかを明らかにしていきます。

次に何を取り上げるかです。持続可能な開発を取り巻く事情は国によって様々です。そのためSDGsの中から身近な問題(青少年と関りが深いものも含む)を取り上げて良いですし、また優先順位の高いものに絞っても良いでしょう。

IT'S TIME TO GET THE CONVERSATION GOING.



注記: 一度にSDGs全部に取り組む必要はありません。かえってその国の青少年にとって一番ニーズの高い事柄に絞って取り組んだ方が、より大きな流れを生み出すことが多いようです。

What will our conversation be about?

何について話し合うのか？

SDGs in our country:

我が国でのSDGs

- 我が国の青少年が直面している最重要課題は何でしょうか？そのような課題をSDGsのどれかと結びつけられないでしょうか？その課題の根本原因は何で、どんな影響を及ぼしているのでしょうか？
- 「積極的に行動する地球市民」というと我が国ではどういう人を指すでしょうか？
- SDGsという我が国ではどんな感じで受け取られるでしょうか？我が国の政府は私たちも貢献できるSDGs実施計画を用意しているでしょうか？
- 私たちの現在の立ち位置はどこで、2030年にはどの辺りに居たいと考えていますか？

少年のニーズに合ったスカウトプログラムにするには何をどのように変容させれば良いか、段階的で包括的なアプローチを示してくれています。

SDGs in our Youth Programme:

スカウトプログラムとSDGs

- スカウトとNSOにとって持続可能な開発が重要なのはなぜでしょうか？
- 今のNSO提供プログラムの中で、社会との協同、持続可能な開発、環境、平和構築、などを反映しているものはあるでしょうか？
- 私たちを取り巻くものごとがお互いに関係していること(例えば、社会・環境・経済のバランス)、身近な問題と地球規模の問題が密接に関わっていること、スカウトたちはこういったことを理解する必要がありますが、それに対してスカウトプログラムはきちんと応えられているでしょうか？
- 様々な問題に対する継続的な改善策を見出すのは大事なことですが、それに対してスカウトプログラムはきちんと応えられているでしょうか？
- スカウトたちがパートナーシップを築くこと(17番目の目標)は大切なことですが、それに対してスカウトプログラムはきちんと応えられているでしょうか？
- 「誰も置き去りにしない」はSDGsの基本理念のひとつですが、それに対してスカウトプログラムは誰も取り残さないものになっているでしょうか？誰かが除外されたり、落ちこぼれたり、放置されたりはしていないでしょうか？
- スカウトプログラムにSWOT分析(何が強み・弱み・機会・脅威なのか明らかにする)をかけるとうまいでしょう。弱点が見つかり、SDGsを活かしたプログラム作りへのヒントとなるでしょう。

この第一歩を踏み出したあとは必要に応じて次のステップを任せられる適任者を指名しましょう。次のステップでは進捗に偏りを出さないことそして適材適所に配慮することが肝心です。



スカウトプログラムとSDGsをどのように同化させるのかわからない、BWFの学びの機会をどのように利用するのかよくわからない、といったことで悩んではいないでしょうか？そんな場合は世界スカウト機構のWOSMサービスがお手伝いします。自国の国際コミッショナー経由でservices.scout.orgに要望を提出してください。
services.scout.org



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Other Scout tools for strengthening the Youth Programme (available on services.scout.org)

スカウトプログラムを磨くその他のツール(services.scout.orgにて入手可能です)

- 世界スカウトプログラム方針: プログラムのライフサイクルを解説しています。
- 世界スカウト青年の意思決定への参画方針: 社会活動に進出していくよう、どのように青少年を後押しするか解説しています。
- スカウティングにおける平和と人権教育: 50～55ページに人権に関する自己採点ツールを提供しています。
- GSAT self-assessment tool: 自己アセスメントの実践的進め方について紹介しています。

2nd step:

Developing Your Youth Programme

スカウトプログラムを作る

アセスメントによって連盟のプログラムの今の立ち位置がわかりました。SDGsに関わる今の青少年のニーズにきちんと応えられているのか、埋め切れていないギャップをどの学びの機会で埋めれば良いのか、そういったことの見通しが立ったはずです。あとはSDGsとの同化に向けてプログラムを実際に計画し開発していくのみです。

この作業には、①現行のスカウトプログラムが持つ要素とSDGs教育が持つ要素の共通点を追っていく、②SDGs教育が勧める学習の目的を再構築してスカウティングの年代別課程に同化させる、③何か新しい試み、例えば、新しいプログラム、バッジ、モバイルアプリ、今までにない学びの機会を加える、といったアプローチが考えられます。

正解はありません。殻など破ってしまってください。スカウトたちがSDGsの若きリーダーを目指すのだという気持ちになってくれるのであれば、それがどのようなものであっても良いのです。

IT'S TIME TO GET CREATIVE.

Inspiring possibilities 可能性を引き出す

- **国の事情に応じた青少年の本当のニーズに応えることの重要性:** 自己アセスメントの結果、ある国では今NSOが最も力を入れなければならないことは青少年の失業問題であると判明するでしょう。別の国ではSDGsのプロジェクトが完遂できるよう青少年のプロジェクト管理能力を高めることが今NSOにとって真っ先に取り組むべき課題であると明らかになるのかも知れません。

青少年の本当のニーズというのは、SDGsにとっても極めて重要であることが多いのです。そういった観点から何ができるか考えてください。それは訓練なのかも知れませんが、新しいバッジの開発、モジュールや学びの機会の提供など様々でしょう。

- **BWFを活用する:** メッセンジャー・オブ・ピース、スカウト・オブ・ザ・ワールド・アワード、アース・トライブなどBWFが取り上げている重点的に取り組むべき課題を利用してみるのも良いでしょう。スカウトたちは、きっとSDGsを我がものとし、行動を起こすようになるでしょう。
- **SDGsを活動に取り入れる:** 活動でSDGsワークショップを展開したり、ジャンボリーで特設テントを設置して目標を展示するのも良いでしょう。

- **全く新しいアプローチを試す:**
SDGsを伝えるのに何か斬新なアイデアがありますか？もしあるなら試してみてください！シミュレーション、e-ラーニング、モバイルアプリ、バーチャルリアリティー、ゲームなどなど、新しい教育法を発見する絶好のチャンスです。
- **今あるものを活用する:**
SDGsには、スカウティングやその他の団体が作り上げた素晴らしいリソースがたくさんあり一般公開されています。その中であなたにぴったりのものがあればプログラムのひとつとして活用してください！「ひらめきの小箱」の項(P.48)でも紹介していますので探してみてください。
- **青少年が関わることの重要性:**
青少年が社会活動に参画すること、これはスカウティングの核となるものです。参画によって青少年のSDGsへの理解が深まるばかりでなく、他のNGOでのボランティア活動や地域社会での支援活動など、実際の社会活動をとおしてより広い視野を持てるようになります。
- **パートナーと取り組む:**
技術を活かしてSDGsに取り組んでいる企業/団体は、SDGs教育を進める上で貴重なパートナー候補となります。そのような企業/団体と一緒に取り組んで、その専門性を活かしてもらいましょう。そういった企業/団体なら、スカウトたちのためにイベントや講習会を開催してくれるかも知れません。
- **持続可能な学習環境の整備:**
SDGsとの同化には、どのようなプログラムが心ざわしいかだけでなく、どのようにプログラムを実施していくのかも関わってきます。つまり、スカウトプログラムをSDGsに同化させるため、プログラム担当指導者は訓練を受け、持続可能な学習環境を整えられるようにならなければなりません。持続可能な環境とは、例えば、チームリーダーの男女バランスが取れていること、ゴミを出さないキャンプの実施、対話力を持った指導者がいること、などが考えられます。

ここまででニーズの絞り込みとどのようなアイデアを用いるかについて考えがまとまったことでしょう。ここはまた、プログラムを公正に評価するためのデータ収集、プログラムの実施状況のレビュー、そして効果の測定、といったプログラムのモニタリングをどう進めるか計画を立て始める段階でもあります。

3rd step:

Implement, Monitor, Evaluate, and Share Your Story

実行・モニタリング・評価そして
共有

同化プログラムは完成しました。あとは実施するのみ
です。早速実施してみましょう！

IT'S TIME TO DO, KNOW, AND SHARE.

Implementing change

副作用の管理

プログラムの同化がどんなに良くても、それが実施され受け入れられなければ意味がありません。つまり、同化がもたらす副作用をうまく管理する必要があるということです。そのため、プログラム実施に当たっては、その開発から実施まで携わった人たちがレベルを問わず関わり、指導者に内容を熟知させしっかり訓練しておくこと、連盟内で効果的に実施・伝達・推進ができるよう必要なリソースはいつでも利用可能な環境を整えておくこと、などが肝心です。

小さなお試しグループなんかにとどまってないで、筋がとおっているならとにかくはじめて評価を待て。(WOSM European Region, 2002)

Building the capacity of adults in Scouting 指導者訓練

指導者はプログラムの進行役として同化プログラム展開のけん引役とならなければいけません。そのため、指導者はしっかりと訓練を受け、プログラムを実施するために必要なリソース(情報・物的支援・人的支援など)を十分に確保したと感じなければなりません。

指導者にとってSDGsを当たりまえのことにするためにできること:

- 指導者訓練開設要項でスカウティングとSDGsのつながりについて触れる
- 指導者訓練の課程にSDGの教程を加える
- 多様な人たち(人種や男女構成、出身地、年齢など)から成る指導者チームを立ち上げる
- 対話力を高める指導者訓練を行い、青少年との対話が進むようにする(*)

(*)対話(dialogue)とは単なる会話でもなく議論や相談、説得、主張などでもありません。ある事柄について共通理解に達するため、お互いの考え・視点・理解度・印象・感じ方などの交換をとおして意思疎通を図る行為です。対話ではお互いの同意点を見出す必要はなく、お互いに尊重し合える点を見出して持続可能な関係を築くことを目指します。詳しくは

<https://www.scout.org/node/184586/introduction>

Monitoring and evaluation

モニタリングと評価

同化プログラム実施中に反応を確かめたりデータ収集したりすることが、SDGsに向かって自分たちが何をどこまでできているかを理解する決め手となります。SDGsに向かって行っていることを把握しない限り、自分たちの力が目標達成にどの程度寄与したのか知る由もありません。またそうしない限り、これまでの内容をレビューすることも、効果を測定することもできないのです。こうしたモニタリングと評価は、事後の単なる感想などで終わらせるのではなく、今後の計画と実行にこそ役立てなければなりません。

この場合、自分たちのプログラムによって青少年が持続可能な開発を推し進めるのに必要な知識とスキルを身につけ積極的な地球市民に育ったのですから、言い換えればSDGsのリーダーに育ったのですから、自分たちのプログラムを精査すれば良いということです。「気づかせる、可能にさせる、実行する」の項(P.18)を改めて見返すと良いでしょう。

ここで自問してみましよう：

- 同化プログラムの前と後では、スカウトたちのSDGsに対する理解と行動はどう変化したでしょうか？1年後にはどう変わるでしょうか？
- これまで何人のスカウトが持続可能な開発に役立つスキルを身につけたでしょうか？(SDGs教育における能力と学習の目的について思い起こしてみてください)
- 同化の結果、スカウトたちのプロジェクトはいくつ増えたでしょうか？

こんなことを試してはいかがですか？

- 何が身につき、どうふるまったかをアンケート調査する
- 実施したプログラムで青少年が受けたインパクトがどれほどか判定できるように指導者を訓練する
- プログラムへの造詣が深いキーとなる人やグループの意見を聞く
- あなたに代わって評価が下せる外部パートナーを見つける
- scout.orgといったインターネットツールを使って自分たちがどんな活動をしたかスカウトたち同士で共有させ、他隊などの好事例からも学べるようにする
- あなたのニーズやリソース次第で他にも手段や方法がいろいろあるでしょう。

どのようなプログラムであれ実施したあとは、その選択が正しかったか、効果や効率はどうであったかなど、改善点を見出すためのチェックを怠らないようにしましょう。

ここで自問してみましょう：

- プログラムは効果的だったろうか？同化プログラムや新しいプログラムを試した指導者は何人いたろうか？
- いまどきの青少年のニーズに合っていたかという目で見たときプログラムは適切だったろうか？
- 時間は無駄はなかったか、人材や資金はうまく回せただろうか？(対費用効果はどうだったか？)

収集したデータと評価結果をどう活用すれば良いでしょうか？

もっと良いプログラムにしようと思直しをするかも知れませんが、素晴らしい結果に満足して加盟員全員に、もしかすると非加盟員にすら広めようとするかも知れません。

でも、それでおしまいにはありません。この情報を活用すれば、身近にある地域のみならず世界のスカウティング以外の団体に対してもどれだけ青少年たちがSDGsに貢献しているのか訴えることができるのです。スカウティングの素晴らしさを広めるコミュニケーションツールがここにあります！

コミュニケーションツール

- スカウティングが青少年育成に及ぼす影響
<https://www.scout.org/impact-report>
- 2023年とそれ以降に向けて：戦略の計画・モニタリング・評価(NSO向けツールキット)
<https://www.scout.org/strategicplanning>





Sharing success 成功体験を共有しよう

経験を共有して回りを刺激しよう！

モニタリングや評価で得た情報を活用すれば、具体的なデータを共有しつつ、自国NSOのSDGsへの取り組みがどんなものであるかを知ってもらうことができます。さらに重要なことは、青少年が地域社会に対してもたらした多大なる貢献について知ってもらえるということです。

継続して取り組みを拡大していくには新しいパートナーや資金確保が欠かせませんが、こういった情報がそれを支える貴重な財産となります。また良いお手本として他国NSOの追従を誘うでしょう。

スカウティングの力を外の世界に訴えましょう。SDGs教育の国内行事に参加したり、メディア(新聞・テレビ・SNSなど)への露出を増やしたりしてスカウティングをアピールしましょう。スカウティングがどれほどSDGsに貢献しているか、もっと知ってもらえるのです。

当然NSO・WOSMといった仲間への情報共有を忘れてはいけません。結果やデータはもちろん、ガイドラインやプロジェクト計画書といったリソース、scout.orgのサイト、その他行事を通じて学んだことなどの共有です。

コミュニケーションツール

- WOSMコミュニケーション・パートナーシップ・ツールを利用すると良いでしょう。様々なPR戦略がWOSMサービスプラットフォームに集約されています。

<http://services.scout.org/service/11>

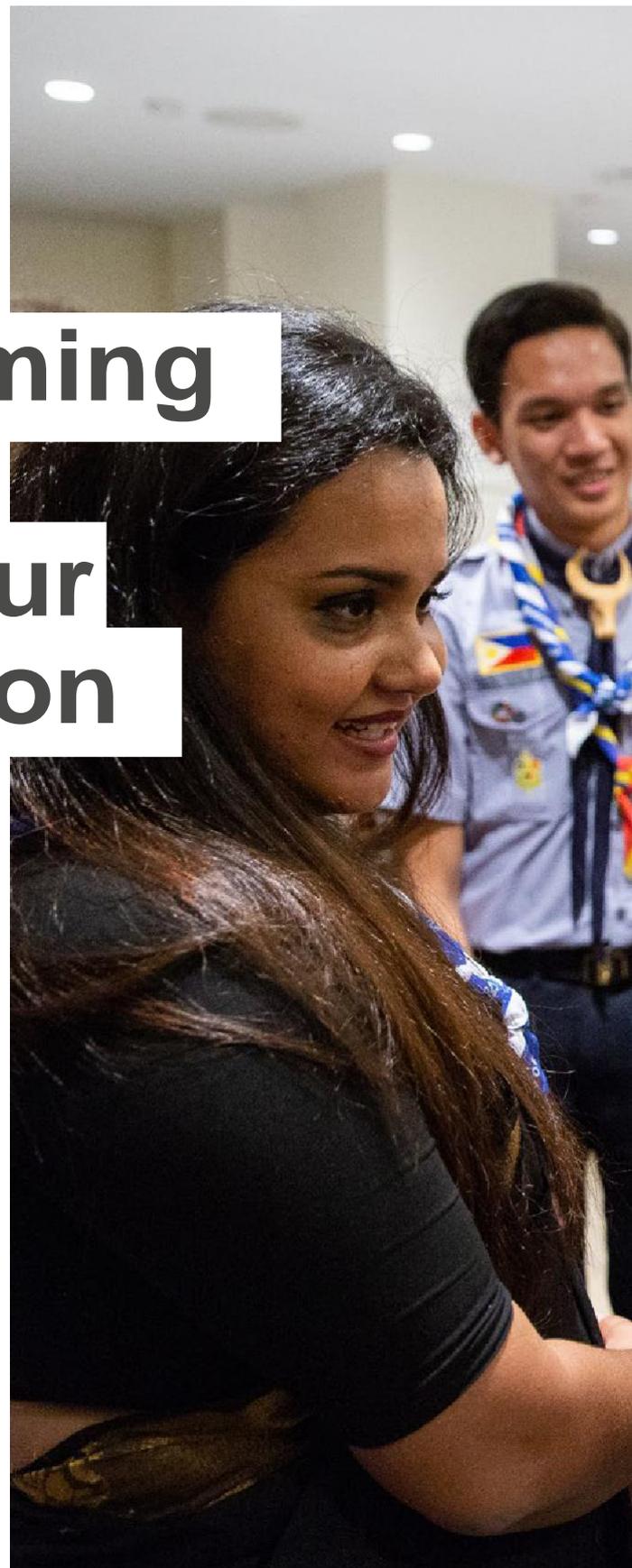


Mainstreaming the **SDGs** Across Your Organisation

SDGsを当たり前のことにする

2030アジェンダでは私たち自身の変革が求められています。青少年にSDGsを理解してもらうには、私たち自身が変化し見本となる必要があります。どうすれば良いのでしょうか？

SDGsをスカウティングに取り込む方法はたくさんありますが、スカウトプログラムはそのひとつに過ぎません。真にスカウティングの教育目標を成就しようとするなら、SDGsに取り組むための学習環境も同化させる必要があります。すなわち、組織全体を見直してより持続可能なものに変革する計画を策定するという事です。そうすることによってはじめて私たちは青少年の見本になれるのです。





**IT'S TIME
TO
THINK
BIG.**

Communications:

コミュニケーション(広報)

スカウティングこそが先陣を切ってSDGsに取り組んでいる青少年団体であると情報発信してスカウティングの評判を高めましょう

- 私たちの社会奉仕活動がSDGsのどの目標に関わるのか関連付けよう
- 私たちが「多様性と包括性」を重んじていることを(写真・動画・言葉などを使って)しっかりと伝え、スカウティングが「誰も置き去りにしない」団体であることをわかりやすくPRしよう
- 17週にわたるSDG週替わりPRキャンペーンをスカウトたちに繰り広げてもらおう
- 月刊「スカウト・フォー・SDGs」ニュースレターを出版しよう
- 自分たちのウェブサイトの新しいページで、スカウトたちがどれほどSDGsに貢献しているかアピールしよう
- スカウティング以外の団体をターゲットに、SDGsの認知度を高める情報発信をしよう

どの項目についてもWOSMサービスプラットホームでサポートが受けられます。

Partnerships:

パートナーシップ

活動にもっと興味を持ってもらえるよう周りの力を借りよう

- 自分たちの活動計画と新しい資金援助先として考えている企業/団体が関わっているSDGsを関連付けよう
- 自分たちの活動計画と新しい資金援助先として考えている企業/団体が関わっているSDGsを関連付けよう
- 環境関連企業/団体のパートナーになって指導者向け生物多様性保全キットを開発しよう
- SDGsに焦点を絞った国家行事に団体で参加して、地球市民・持続可能な開発の教育に関する国家レベルの話合いの先頭に立ちよう
- 持続可能性に関する好事例を内外NSOと共有しよう
- 公的機関や政策決定者のパートナーになって国家レベルのSDG達成計画を青少年に関わる見識・考え・データの面から支援しよう
- 国家機関が公約したSDGsについて説明責任が果たされるよう監視しよう

Governance and policy:

ガバナンスとポリシー

SDGsを制度化する

- 自国NSOの戦略プランにSDGsを組み入れ、自分たちの持続可能性が高まる行動と成果を目に見える形で実現しよう
- 環境への対処方針を打ち出して実行しよう
- 自分たちの組織運営におけるジェンダー平等を貫こう
- スカウティングの中で置き去りにされている者を明らかにし、あらゆる人に手を差し伸べるための計画を練ろう
- 自国の少数民族・少数派の人々の声が政策決定に反映されるよう努めよう
- 自国NSOがSDGsに貢献したことを次の年度報告書で紹介しよう
- SDGsと相反する課題が浮上した場合、SDGsの優先順位を高めるにはどのような方法・タイミングが良いのか(何を犠牲にするか)理事・役員間で議論しておこう
- 自国NSOの理事・役員にSDGsトレーニングを受けておいてもらおう
- 自国NSOの理事・役員から「SDG監査役」を選任して、決定事項がSDGsに沿うよう監視しよう
- 自分たちの資金、投資、人員配置が倫理上問題ないか、またSDGsに沿ったものであるか確認しよう

Operations:

オペレーション

学習環境の見直し

- 自分たちのスカウトセンターが、自然・環境・持続可能性に特段の配慮をするスカウトセンター(SCENES)になれるよう支援しよう
- 自国NSO主催行事をゴミを一切出さないイベントにしよう
- 制服はフェアトレード企業に生産してもらおう
- 自分たちの周り(学校・クラブ・スカウティングなど)で置き去りにしてしまっている人はいないだろうか?手を差し伸べて仲間に加えよう

持続可能性には計画的に取り組んでいきましょう。

大きな組織をSDGsに沿ったものに変革していくプロセスは、スカウトプログラムを組み立てていくプロセスに似ています。

1. ニーズをくみ取る
2. 必要なものは何か考える
3. 実施・モニタリング・評価の計画を立てる
4. 試行し見直して実施する
5. 変更点をモニタリング・評価し、改善や拡張をする
6. 好事例を共有する

Sources of inspiration

ひらめきの小箱

ここではNSOのSDGsへの取り組み事例をいくつか紹介しています。何かひらめくかも知れません！

Some highlights in Scouting スカウティングでの参考例

Creating a Better World

より良き世界の創造
デンマーク連盟

17 activities for 17 goals

17の目標に対する17の活動
スコットランド連盟

Rozhl'adňa

展望台
スロバキア連盟

以上のプログラム資料では、各SDGに呼応する活動や挑戦が紹介されています。中身は対象年代に応じて簡単に変えられます。

SDG hubs, events, and workshops in Belgium

ベルギーにおけるSDG活動拠点、イベント、ワークショップ
ベルギー連盟

1. ベルギー連盟年次総会Scoutopia 2017の場でSDGsが前面に押し出されました。670人の指導者がその場で活動やワークショップに参加し、目標設定し、その目標に資する活動の開発に取り組みました。
2. ベルギー連盟のウェブサイトにはSDG Hubが新設され、各目標に対するテーマ別・年代別のリソースが山のように蓄積されました。
3. 2時間に及び成人向けSDGsワークショップのガイドも作り上げました。

Better World Singapore

ベターワールドシンガポール
シンガポール連盟

シンガポール連盟ではベターワールド運動に特化したウェブサイトの新設しました。そこではSDGsが何か、自分たちにとってどんな意味があるのかが説明されています。プログラムをやり遂げたスカウトは地球規模の目標がどんなものであるか習得できます。

Linking programmes, projects, and partnerships to the SDGs in France, Burkina Faso, Côte d'Ivoire, Niger, and South Africa

フランス、ブルキナファソ、コートジボワール、ナイジェリア、南アフリカ間でSDGs関連のプログラム・プロジェクト・パートナーシップを連携する活動

上記の国々のスカウトたちは自国スカウティングのSDGsへの取り組みについて、パートナーシップ・プログラム・プロジェクトをとおして連携を開始し、この連携を制度化しました。これによってスカウトたちは自分たちがSDGs達成に向けて実施していることをより良く理解し、自分たちの貢献度を周りに情報発信できるようになりました。

Bringing education for the SDGs to all

全ての人にSDGs教育を
フランス連盟

2017年、フランス連盟は年間8万人以上の青少年に対してSDGs教育を施す3か年計画を開始しました。そのため連盟はスカウトプログラムにSDGs教育を織り込み、スカウトたちはもちろんスカウト以外の青少年の間でもますます広がりを見せています

自国でスカウティング以外の団体が作ったSDGsに役立つリソースがないか確認してください。自国の事情を反映しているのでSDGsに取り組むアイデアなどを得る上でより現実的なものとなるでしょう。

Some highlights outside of Scouting スカウティング以外の参考例

Global Goals Portal

グローバル・ゴール・ポータル

国際連合 5カ国語対応

ユース・フォー・グローバル・ゴールはAIESECが掲げる活動の柱のひとつで、ボランティア活動やSDGs達成に貢献できるフォーラムへの参加などをおして若者にSDGsへの理解を深めてもらうことを目的としています。

Youth 4 Global Goals

ユース・フォー・グローバル・ゴール

AIESEC(アイセック:学生団体)

ユース・フォー・グローバル・ゴールはAIESECが掲げる活動の柱のひとつで、ボランティア活動やSDGs達成に貢献できるフォーラムへの参加などをおして若者にSDGsへの理解を深めてもらうことを目的としています。

World's Largest Lesson

ワールド・ラーjest・レッスン

国際連合 15カ国語対応

ワールド・ラーjest・レッスンでは世界中の子供たちや若者にSDGsを紹介し、力を合わせて行動しようと働きかけています。アニメでSDGsをわかりやすく紹介しており、SDGsのことが楽しく学べる教材などが豊富にそろっています。(YouTubeで検索可能)

Education for Sustainable Development Goals Learning Objectives

SDGs教育 その学習の目的

ユネスコ

このガイドラインでは、詳しい学習の目的やアプローチの仕方、17の目標が持つそれぞれの課題について触れています。SDGs教育のリソース開発の助けになるでしょう。

TheGoals.org

International Foundation for the Young Masters Programme (ISYMP)

ヤングマスターズ国際基金

ISYMPは世界中の若者をつなぐオンラインプラットフォームです。楽しみながらSDGsに双方向で取り組むことができます。インターネットができる機器なら何でも対応可能です。そのため世界ガールガイド・ガールスカウト機構はこれをSDGs教育に利用しています。

The SDGs in Action App

SDGsアクション・アプリ

GSMA and Project Everyone

このアプリを使えば、年代に関わらずSDGsに関するニュースを見たり、学びを深めたり、プロジェクトを登録したりできます。

United Nations Virtual Reality

国連バーチャルリアリティ

国際連合

スマートフォンとカードボードヘッドセットさえあれば、バーチャルリアリティ(VR)を体験できる世の中になりました。あなたは誰かの靴となりその靴の気持ちになって周囲を見聞きする体験ができます。

まだまだたくさんの役立つ事例や経験談がSERVICES.Scout.ORGで見つかるでしょう

みなさんのNSOでもSDGsの課題の一部である、ジェンダー平等、環境保護、ダイバーシティ&インクルージョンといった特定のものについてのリソースがもっとたくさん見つかるに違いありません。scout.orgのリソースハブやservices.scout.orgのYouth ProgrammeタブにあるWOSMサービスプラットフォームをクリックしてあなたの希望に合ったリソースを見つけてください。

Conclusion

まとめ

人類にとって2030年までにこの17の目標を達成することはたやすいことではありません。ここに掲げている目標は壮大であり、人類全体、特に青少年の力が必要なのです。SDGsは人類共通の行動指針になりました。そしてそれはより良い世界の実現を願うスカウティングが共有する行動指針であり行動目標でもあります。

ここにこそスカウティングの活躍の場があります。スカウティングの目的はSDGs同化プログラムをとおして青少年を自給自足型の行動する地球市民に力強く導いていくことです。現在そして未来の世界に必要な持続可能な開発を先導していくリーダーを育てることができるのはまさにこのスカウティングなのです。

青少年が自分たちのスカウトプログラムや運営組織をSDGsに同化させるためのオプションをNSOはいくつも用意しています。手段はどうあれ、私たちの目標は、青少年に持続可能な開発を推し進めるための知識とスキルを身につけさせることであり、その国の最重要課題に挑むことでSDGs達成に貢献させることなのです。

同化できそうな分野があるか見極め、それに向けて計画・開発・実行をし、結果を継続的にモニタリング・評価する。そしてそれがどう響いたのかを追い求めていけば、そのNSOにふさわしいやり方を見つけられるはずです。

Never forget:

あなたにはNSOの一員としてすべき極めて重要なことがあります。それはスカウトたちにとって身近で現実的な問題の中で一番重要なものに取り組むよう彼らを支え奮い立たせることです。そのことを決して忘れないでください。

References

参考文献

UNESCO. (2017). Education for Sustainable Development Goals; Learning Objectives.

"This publication is available in Open Access under the Attribution-ShareAlike 3.0 IGO (CC-BY-SA 3.0 IGO) license (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/igo/>)."

United Nations. (2015). Transforming our World: The 2030 Agenda for Sustainable Development.

UNICEF. (2018). Children and the Sustainable Development Goals. UNICEF Data.

UNFPA. (2014). The Power of 1.8 Billion. State of World Population.

World Commission on Environment and Development. (1987). Our common future. Oxford: Oxford University Press.

WOSM. (1998). Essential characteristics of Scouting.

WOSM. (2017a). World Scout Youth Programme Policy.

WOSM. (2017b). Document 8: World Scout Method Review.

WOSM. (2017c). Constitution.

WOSM. (2018). Mission and Vision 2023.

WOSM European Region. (2002). From Vision to Reality – Implementation at local level.

#Scouts4SDGs



© World Scout Bureau Inc.
November 2018

World Scout Bureau, Global Support Centre
Kuala Lumpur

Suite 3, Level 17,
Menara Sentral Vista, No 150
Jalan Sultan Abdul Samad
Brickfields, 50470
Kuala Lumpur, MALAYSIA

Tel.: + 60 3 2276 9000
Fax: + 60 3 2276 9089

worldbureau@scout.org
scout.org

Reproduction is authorised to National Scout Organizations and Associations which are members of the World Organization of the Scout Movement. Credit for the source must be given.

The production of this publication was made possible thanks to the support of Alwaleed Philanthropies.